

公益財団法人宗像ユリックス
平成 29 年度事業計画

平成 29 年 3 月

公益財団法人宗像ユリックス

< 目 次 >

1. はじめに	2
2. 平成 29 年度管理運営の基本方針及び事業について	
(1) 基本方針	3
(2) 事業運営	
① 公 1、収 1 「公園施設等の管理運営事業（貸館事業）」	4～5
② 公 1、収 1 「公園施設等の管理運営事業（施設管理）」	6
③ 収 2 「利用者サービス事業」	7
④ 公 2 「文化芸術振興事業（文化事業）」	8～11
⑤ 公 2 「文化芸術振興事業（プラネタリウム運営事業）」	12～13
⑥ 公 3 「健康増進事業（健康増進施設管理運営事業）」	14～17
⑦ 公 3 「健康増進事業（健康増進企画・体験事業）」	18
(3) 法人運営	
① 組織・運営体制	19
② 財政運営	19

1. はじめに

平成 29 年度は、公益財団法人宗像ユリックスにとって、これほど総合力が試されることはない、と覚悟を決めて臨む 1 年になるはずです。

何よりもまず、第 4 期指定管理者としての地歩を確実にしなければなりません。これを勝ち取ることなしには何も始まらないからです。3 期 12 年におよぶ実績と経験、そしてこれからへの展望をしっかりと織り込みながらユリックスをアピールし、宗像市と市民の信託を得ていきます。

第 2 に、今年は「神宿る島・沖ノ島と関連遺産群」の世界遺産登録が決まる年です。関連したイベント、式典行事などユリックスが関わる取り組みが相次ぐ中で、しっかりと対応することが求められます。

さらに、10 月には第 37 回全国豊かな海づくり大会が、宗像市へ初めて両陛下がお見えになって開かれます。その主会場となるのがユリックスです。全国から漁業関係者などがここに集います。宗像からの情報発信のチャンス。私たちの力が試されるでしょう。

最後に嬉しいお知らせです。平成 28 年度地域創造大賞（総務大臣）を宗像市とユリックスが獲得しました。宗像市の「文化芸術のまちづくり 10 年ビジョン」に基づく音楽出前コンサート（アウトリーチ）の取り組みが高い評価を受けたのです。

これまでの事業展開に誇りと自信を持つとともに、これからは繋げていく励みともなる受賞でした。29 年度もこの路線を揺るぎなく継続していきます。

改めて市民、利用者のみなさんの変わらぬご支援、ご指導をお願いしながら、新しい年度に向かう決意をお伝えする次第です。

2. 平成 29 年度管理運営の基本方針及び事業について

(1) 基本方針

平成 29 年度は、第三期指定管理の 4 年目、最終年である。来年度からの第四期指定管理獲得へ向けて確実に実績を積み重ねていき、獲得実現を目指す。

市が策定した「宗像市文化芸術のまちづくり 10 年ビジョン」の着実な実施のため、市や市民、利用者、各種団体との連携・協働を進めていく。

さらに、本年度の「宗像・沖ノ島と関連遺産群の世界遺産登録」の関連事業や「第 37 回全国豊かな海づくり大会」式典開催への対応に万全を期すこととする。

① 音楽のあふれるまちづくりに向けた活動

地域の元気ある未来づくりに寄与するため、幼少・学生など若い世代に重点をおき、アウトリーチ事業などの子どもの発育段階に資するための鑑賞・体験事業を計画的に実施する。

② コミュニティ運営協議会や各種団体、教育機関などとの連携

宗像ミアール音楽祭、アウトリーチ事業、健康増進事業など文化芸術、歴史、科学、スポーツ及びレクリエーションに関する様々な事業をコミュニティ運営協議会や大学など各種団体と連携して実施していく。

③ 健全財政への取り組み

収入改善のため、各施設の利用率、主催事業のチケット販売率の向上を目指す。また、新しい財源の確保のため、税制優遇制度の活用をしながら、市民、団体、企業からの寄付を集める。

④ 「安全・安心」の宗像ユリックスを目指して

宗像ユリックスは開館 29 年を迎え、前年度に実施した市民アンケートの結果を踏まえて、これからも利用者が安全に、安心して利用できる施設として、老朽化対策や維持管理のための改善を市と連携して行っていく。

⑤ 宗像ユリックス 30 周年事業への取り組みを始動させる。

(2) 事業運営

① 公 1、収 1 「公園施設等の管理運営事業（貸館事業）」

平成 28 年度は昨年度に行なわれたイベントホール保全改修工事の影響から回復し、利用者数及び利用料収入の増加が見られた。

しかし、今年度は 4 月に行われるイベントホール、ハーモニーホールの保全改修工事の影響による利用者数および利用料金収入の減少が見込まれるため、それをカバーするための施策立案を行なうとともに、施設利用状況の分析を行ない、利用者数や利用料金の減少率を減らしたい。

サービス面としては、「夜間有料学習室」、「スタジオ当日受付の半額割引」の継続、「舞台上で気軽にピアノレッスン」の利用推進など、利用者に定着した施策を提供していくこととともに新たな施設稼働率向上の施策立案及び実施を目指す。

よりスムーズな施設予約やチケットの提供を行なう為の窓口での接客・電話対応レベル向上を目指し、職員の研修への積極的な参加を行なう。

昨年度実施した宗像市民 2,000 人を対象とした 4 年に一度の市民アンケート調査の結果を踏まえ、利用者ニーズの把握とその結果を基にした備品の更新・サービスメニューの拡充や施設保全工事計画への提言などを盛り込んだ次期指定管理提案書を作成し、更なる利用環境の改善や来場者の満足度アップを図っていく。

また、今年度は「宗像・沖ノ島と関連遺産群の世界遺産登録」や「第 37 回全国豊かな海づくり大会」、「プリンセス駅伝」などの大きな行事が行われるため、これを全国に「宗像ユリックス」の魅力をアピールするチャンスと捉え、宗像市はもちろんのこと、関係機関との十分な連携を取りながら準備を進めていく。

以上の施策を踏まえ、今後も利用者ニーズに沿った施設運営とサービスの導入を続けながら、「利用料金収入」、「施設稼働率」、「利用者数」の 3 大指標の向上を目指す。

【 数値目標 】

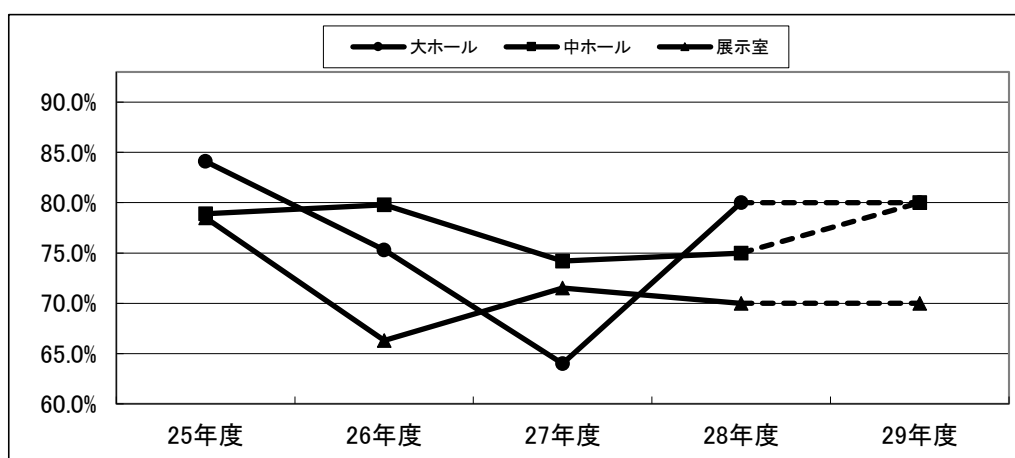
●3 大施設平均利用率 76.7% 【大ホール 80.0%、中ホール 80.0%、展示室 70.0%】

3 大施設利用率の推移

※28 年度は見込値、29 年度は目標値

	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
3大施設利用率	80.5%	73.8%	69.9%	75.0%	76.7%
大ホール	84.1%	75.3%	64.0%	80.0%	80.0%
中ホール	78.9%	79.8%	74.2%	75.0%	80.0%
展示室	78.5%	66.3%	71.5%	70.0%	70.0%

※利用率は、貸出可能日数のうち利用された日数の割合



●本館等利用者数 190,000 人 / 本館等利用料金 60,000,000 円

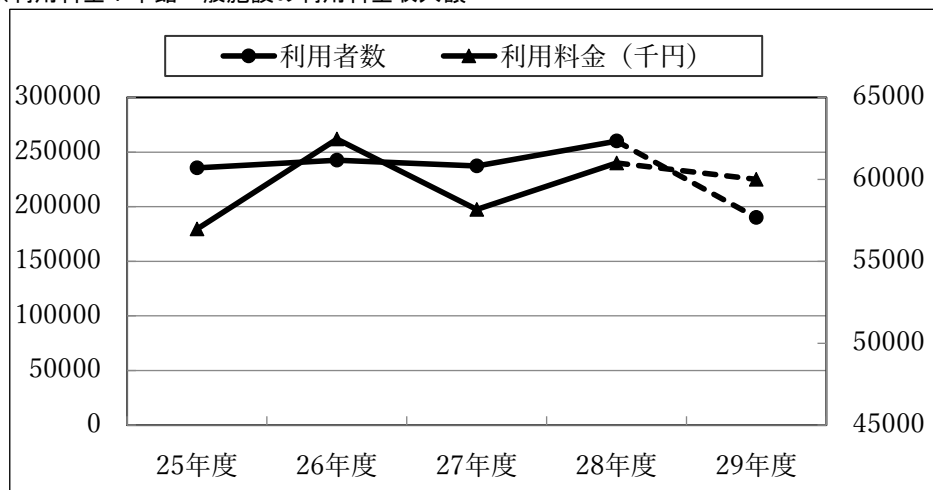
本館利用者数・利用料金の推移

※28 年度は見込値、29 年度は目標値

	25 年度	26 年度	27 年度	28 年度	29 年度
利用者数(人)	235,378	242,524	237,290	260,000	190,000
対前年比	98.4%	103.0%	97.8%	109.6%	73.1%
利用料金(千円)	56,967	62,458	58,164	61,000	60,000
対前年比	106.8%	109.6%	93.1%	104.9%	98.4%

※利用者数：本館一般施設利用者（図書館を除く）と視察者の合計人数

※利用料金：本館一般施設の利用料金収入額



② 公 1、収 1 「公園施設等の管理運営事業（施設管理）」

宗像市が実施する第二期保全工事は、平成 28 年度から平成 29 年度の 2 年間で実施することとなっており、両ホール楽屋及びイベントホール前ロビーの改修や空調機器の改修、サーキットトレーニングコースの改修、園路灯の改修などが予定されている。各工事とも利用者とのトラブルや事故が起こらないよう、十分な調整を行っていく。

また、財団で行う修繕工事は迅速に対応し、施設の長寿命化やユリックス来場者の事故ゼロを目指す。

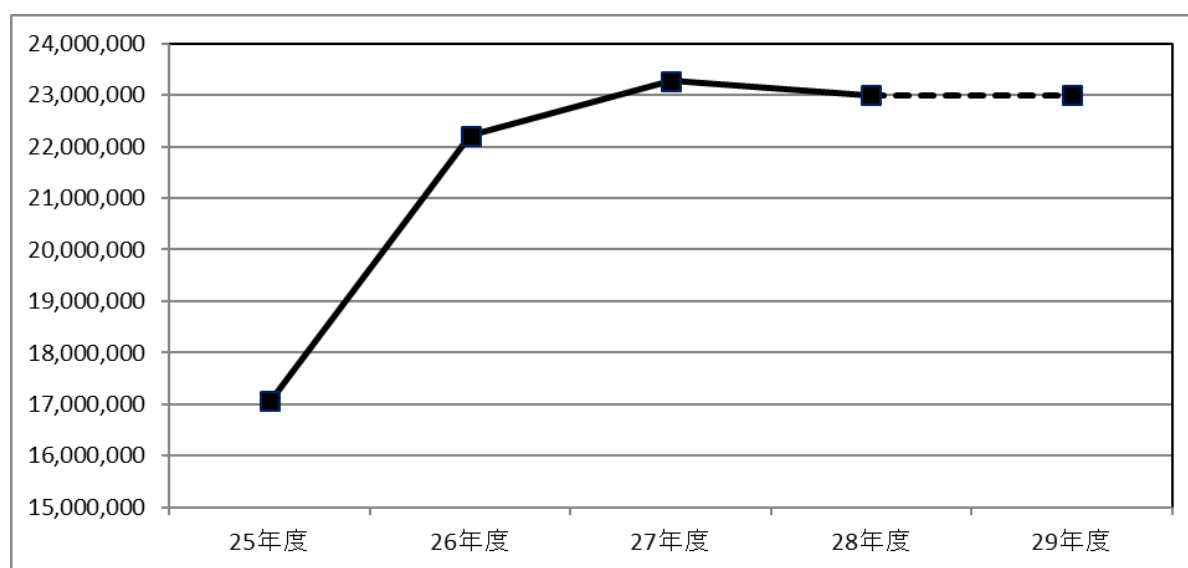
公園内の植栽管理は着実に実施されており、継続して今年度も更なるレベルアップを目指していく。

安全管理として、各設備の法定点検の徹底及び、例年実施している防災訓練を継続して実施し、不特定多数の来場者をお迎えする施設に勤務する、全職員の意識の維持向上を図っていく。

【 修繕状況 】

※28 年度は見込値

	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
修繕発生件数(件)	92	101	122	130	130
対前年度比	87.6%	109.8%	120.8%	106.6%	100.0%
修繕費(円)	17,056,927	22,218,978	23,279,194	23,000,000	23,000,000
対前年度比	74.9%	130.3%	104.8%	98.8%	100.0%



③ 収 2 「利用者サービス事業」

● 自動販売機設置事業

利用者に飲食物の便宜を供するために公園内の 28 カ所に自動販売機を設置しており、手数料収入として、売上額の 15～35%を手数料として徴収しているが、近年、伸び悩んでいる。

機器の更新や設置場所の見直しを含めた計画の策定を行うことで次期指定管理期間からの契約更新を実施、更なる手数料収入の増加と利用者の利便性の向上を目指す。

● 物品等販売事業

本館インフォメーション窓口において、傘、切手、収入印紙、テニスボールなどの販売事業を行なっている。昨年度行なった 4 年に一度の市民アンケート結果を踏まえ、より一層の利用者サービスの向上と収入の確保に努める。

また、弁当、花の注文代行サービスの積極勧奨を行ない、更なる手数料収入の増加を目指すとともに、新しい館内レストラン事業者との連携を模索する。

④ 公 2 「文化芸術振興事業（文化事業）」

第三期指定管理期間は、「普及・参加・育成型事業重視」の方向性を堅持しつつ、宗像市文化芸術振興条例に定められた理念である「文化芸術に親しめる環境整備」、「文化芸術のための人づくり」、「文化芸術を活かしたまちづくり」の実現に向けた具体的な取り組みを宗像市と協働し推進する。

25 年度よりスタートした「宗像ミアーレ音楽祭」は、反響が非常に大きく、単発的なイベントとして終わらせずに継続的・発展的に取り組むとともに、文化芸術の担い手となる人材の養成と交流による市民文化活動の活性化に寄与していく。

そして、音楽祭をはじめとした様々な事業を通して、地域の人々を取り巻く社会的状況等に関わりなく、人々が潤いを感じ、心豊かな生活を実現する、「新しい広場」としての劇場・音楽堂を目指していく。

● 文化芸術に親しめる環境整備

＜コミュニティ・学校との連携による鑑賞機会の創出＞

第二期より取り組みを始めたアウトリーチ事業をコミュニティ・学校との連携協力により積極的に推進し、長期的・継続的なプログラムとして展開していく。29 年度も、子どもの発育段階に応じたアウトリーチ事業を、すくすくコンサート、市内幼稚園・保育所全園、市内小学校全校、市内中学校全校で実施する。今後も更なる質の向上を図り、経験品質を高めていく。また、鑑賞型事業との関連性を訴求することで、事業効果も高めていく。

● 文化芸術のための人づくり

市民文化活動の活性化を見据えて、文化芸術の担い手の養成や交流を積極的に推進していくため、財団のコーディネーター機能を高める。積極的な外部研修参加や先進地視察の実施などを通して、コーディネーターのスキル向上を図っていく。併せて、アーティストや地域との積極的な交流を通して、必要となる専門性や地域特性の情報について、時間をかけて蓄積していく。

● 文化芸術を活かしたまちづくり

＜宗像ミアーレ音楽祭の継続ほか＞

平成 25 年度より継続的に実施している宗像ミアーレ音楽祭の反響は非常に大きく、長期的な視点をもった事業展開を行う。「ホールコンサート」はもちろん、「アウトリーチ」、「市民ステージ」の評価も高く、この形態を維持していく。今年度は市民ステージ部会を中心に、これまで以上に市民参画の事業展開を目指し、市民の祭り、ハレの空間として位置付けて取り組む。

また、「宗像・沖ノ島と関連遺産群」の世界遺産登録と連動する事業として、「砂と音楽の物語」や「九響と散策する名曲の小径」、「ウイーン・シェーンブルン宮殿オーケストラ」

の3公演を、登録前後に実施し、市民の期待に応じていく。

＜スマイルキッズプログラム＞

次代を担う子供たちが文化芸術を体験する場を積極的に提供し、直に触れることで生まれる感動や喜びを通して、豊かな感受性を育むことを目的とする。また、「スマイルキッズプログラム」を実施することで、宗像市が都市ブランドとして目指す、「子どもがすくすく育つまち」・「子どもにやさしいまち」の実現に貢献し、公共ホールとしての役割を果たしていく。

29年度は、毎月1回開催している「すくすくコンサート」が好評であり、需要の高さを感じられることから、発展形として「ホールでのすくすくコンサート」を実験的に開催し、社会的な制約の多い未就園児とその母親の期待に応えたい。

多くの事業で構成される「スマイルキッズプログラム」は社会的課題解決を意識した投資事業として位置づけて継続的に実施するとともに、専用広報紙を作成し、事業そのものの認知度を高めていくことで、宗像ユリックスに対してロイヤリティをもつ顧客の育成につなげていく。

【対象事業】

- ・ 小学校4年生芸術鑑賞モデル事業
- ・ いきいき出前コンサート(幼稚園・保育所・小学校・中学校対象など)
- ・ すくすくコンサート(アウトリーチ事業+ホール事業)
- ・ むなかた子ども芸術祭
- ・ ユリックス ジュニアブラス
- ・ ジャジャジャジャーンで始まる・わくわく・ドキドキ♥オーケストラ体験
- ・ 九管ポップス ファミリーコンサート
- ・ 音楽の絵本 他

● 連携体制

宗像市・教育委員会・各コミュニティ運営協議会等との連携を積極的に行うことで、事業効果をより高めていく。昨年度、各地区コミュニティ運営協議会と連携し、「いきいき出前コンサート」を積極的に推進することを目的として覚書を締結し、具体的な活動をスタートさせた。本年度も連携関係を深めながら、事業を実施していく。同様に、福岡教育大学と連携に関する協定に基づく活動を行っていく。今後も関係機関との連携体制構築も着実にやっていく。

● 「ユリックス スマイルクラブ」運営

平成27年度より、「ユリックス倶楽部」の内容を見直すとともに、新名称「ユリックススマイルクラブ」としてスタートした。今後は、会員がより使いやすく、よりメリットを享受できる制度確立へ目指す。

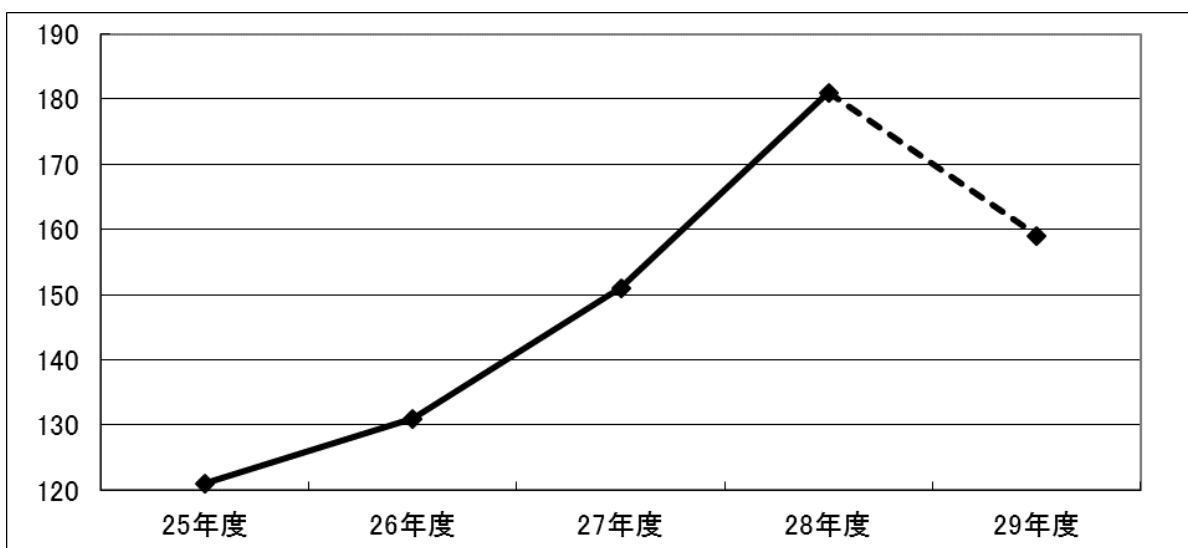
【 数値目標 】 ●事業本数 【159 本】

平成 29 年度は、共催事業を含め年間 159 本とする。

事業本数（ジャンル別）

※28 年度は見込値、29 年度は目標値

事業ジャンル	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
音楽(クラシック)	9	10	11	9	10
音楽(クラシック以外)	7	6	12	14	16
映画	16	14	12	15	11
演劇・古典芸能	8	6	6	4	3
美術	3	2	2	2	2
アウトリーチ	66	85	96	94	80
その他	12	8	12	43	37
合計	121	131	151	181	159



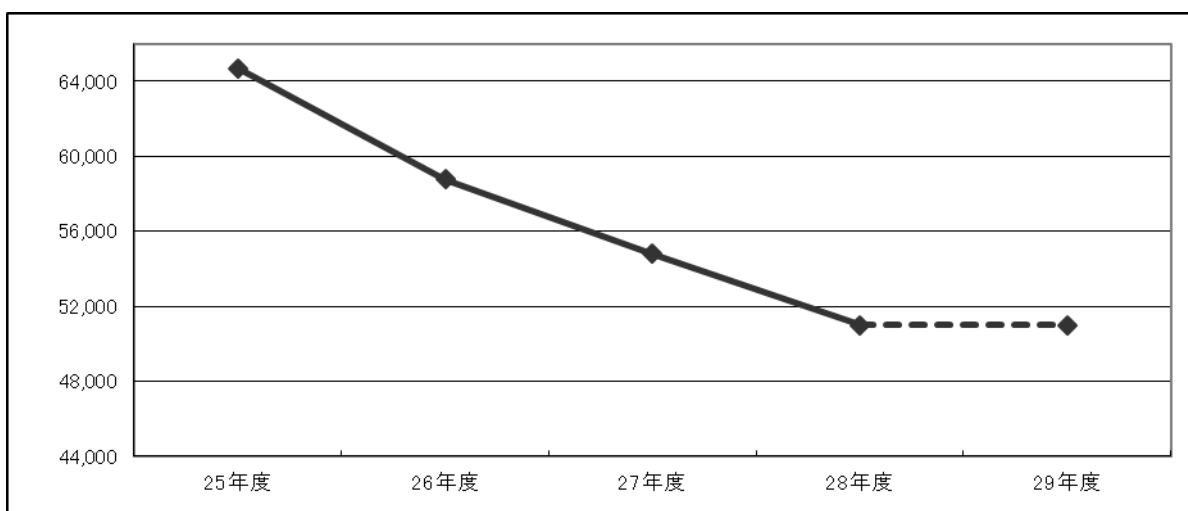
【 数値目標 】 ●入場者数 【51,000 人】

入場者数は、事業本数 159 本実施を前提条件として、51,000 人を目標とする。

文化事業・入場者数の推移

※28 年度は見込値、29 年度は目標値

	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
入場者数	64,700	58,788	54,798	51,000	51,000
対前年比	143.1%	90.9%	93.2%	93.1%	100.0%
対前年人数	19,494	△ 5,912	△ 3,990	△ 3,798	0



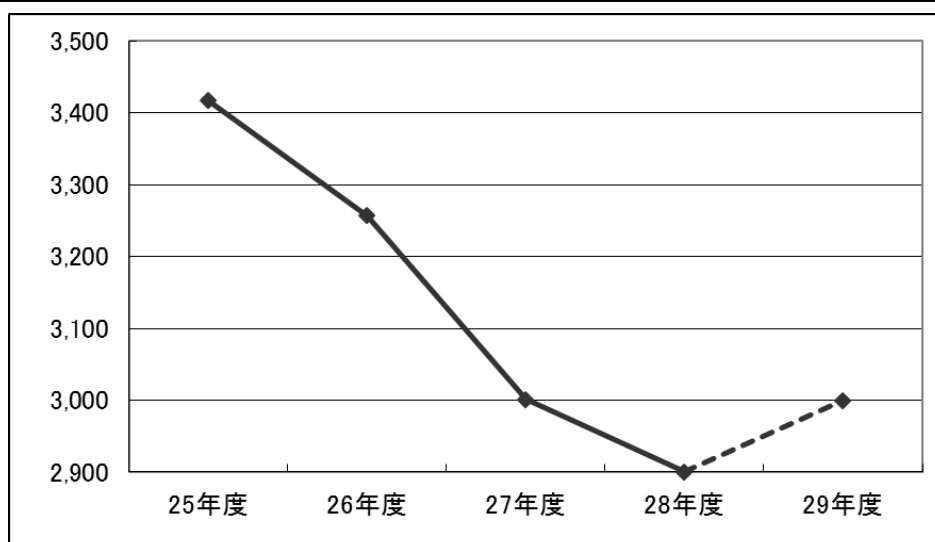
【 数値目標 】 ●ユリックス スマイルクラブ会員数 【3,000 人】

会員数目標を 3,000 人とし、会員数増に向けて積極的な広報を行う。

会員数の推移

※29 年度は目標値

	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
会員数	3,417	3,257	3,001	2,900	3,000
対前年比	94.7%	95.3%	92.1%	96.6%	103.4%
対前年人数	△ 192	△ 160	△ 256	△ 101	100



⑤ 公2「文化芸術振興事業（プラネタリウム運営事業）」

来場者のニーズに適合したプログラムの提供や観望会の実施、ボランティアの活動支援などの地域に根差した活動を始め、小学生向けの講座「ほしぞら友の会」やリラクセーションプログラムの夜間投影などにより、同規模プラネタリウム（座席数 100 席未満）としては全国 4 位の入場者数を記録している。今後、これらの事業の質をさらに高め、入場者数を落とさぬよう注力していく。

● 来場者のニーズに適合したプログラムの提供

プラネタリウムでは、年齢層ごとに対象を絞ったプログラム展開を行っており、これが近隣他館にはない魅力となっている。そのため、リピート率が向上し入場者数が安定して高い水準を保っているものと考えている。今後も来場者の期待を裏切らない番組制作を心がけていく。

子ども向けプログラムでは、来場者がいつ来ても違った内容を楽しめるよう、ショートストーリーの定期的な変更や、「クイズ」や「お絵描き」のバリエーションの増加などを継続していく。

また、大人を中心に人気となっているリラクセーションプログラムでは、星空や映像をゆったりと楽しめる空間作りを心がけていくほか、徐々に定着しつつある月 1 度の「夜間投影」の周知をより一層進めていく。

おとな向けでは、最新の天文学や宇宙に関する内容を積極的に取り入れたプログラム作りを行い、入場者の興味・関心を刺激するような番組作りを行っていく。

県内の他のプラネタリウムとは違い、全て専門職員によって番組制作を行い、生解説でプログラムを進めているという特色を生かし、さらなる入場者増につなげていきたい。

● 学校団体利用の促進

学校団体の利用は、子どもたちにとって貴重なプラネタリウム体験の機会である。そのため、特に市内学校の利用率向上に努めていきたい。

また、県内広範囲の小・中・特別支援学校に案内を送付してきたことで、遠方からの来館が続いている。今後も、学校行事の計画時期にあたる年度末にダイレクトメールを一斉送付し、団体利用のさらなる促進を図っていきたい。

● 天文普及に関わる事業

天文普及に関する事業として、月に 1 度の観望会「ほしぞらウォッチング」の実施や小学生対象の講座「ほしぞら友の会」を行っている。これらの天文普及に関する事業を通じて、科学に対して興味・関心を持ち、正しい科学知識・能力を持つ子どもたちを育み、将来を担う人材育成の場としていきたい。

● ほしぞらスタッフ（ボランティア）による天文普及活動の支援

ほしぞらスタッフ（ボランティア）は、現在市内外より 47 人の登録がある。観望会やイベントの企画・実施の他、クリスマス番組制作などにおいても活躍をしている。近年、活動のマンネリ化が進んでいる部分も見られるため、ボランティア自身が楽しめるような活動の仕掛けを考えていきたい。

● 広報活動の見直しと工夫

これまで県内の学校団体や幼稚園・保育園へ案内送付を行い、団体利用の促進を続けてきた。また、個人来館者へのアプローチとして、近隣施設へのリーフレット・ポスターの設置、アンケート回答者（5,500 件）への案内送付など、入場者数増に向けた広報活動を進めている。また、近年は Facebook や Twitter など、インターネットによる口コミを利用した広報も行ってきた。これらの広報による効果を見極め、より効果的に入場者増につながるよう工夫をしていきたい。

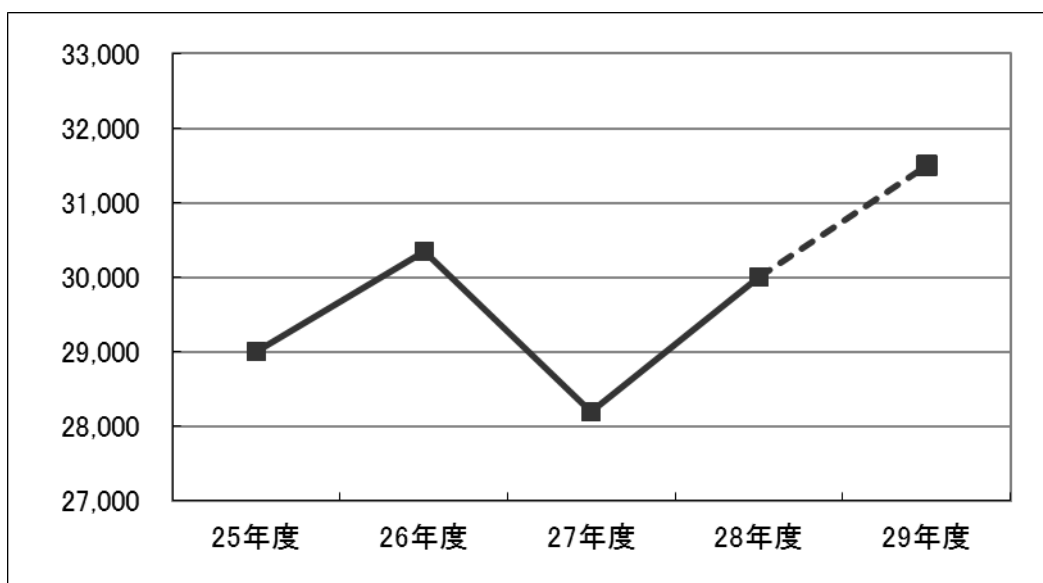
また、学習投影を利用した市内児童への招待券配布など、小学生を核とした家族単位での来場を積極的に促していきたい。

【 数値目標 】 ●入場者数 【31,500 人】

プラネタリウム入場者数の推移

※27 年度は見込値、28 年度は目標値

	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
入場者数	29,005	30,345	28,186	30,000	31,500
対前年比	97.0%	104.6%	92.9%	106.4%	105.0%
対前年人数	△ 882	1,340	△ 2,159	1,814	1,500



⑥ 公 3 「健康増進事業（健康増進施設管理運営事業）」

● アクアドーム

国や宗像市の健康・スポーツに関する計画等の趣旨・基本理念等と合致することを基本に、利用者の「総合的健康の維持向上」を行う。

- ① ホームページやアクアドーム新聞等の広報媒体による健康づくり情報収集・発信
・主な事業であるウエルネスクラブ・スイミングスクールや新たに取り組むサービス向上施策を、広報紙や新聞折り込みチラシを通して周知を図っていく。
・アクアドームで行われるイベント情報や健康情報を簡単にまとめた「月刊アクアドーム新聞」をコミュニティセンターに配布する。

② 宗像市の健康づくり事業の積極的な実施

（特定保健指導、介護予防事業、スポーツ推進計画など）

- ・特定保健指導の積極的支援、動機づけ支援、特定健診結果説明会での運動指導、特定保健指導対象者に指導参加を促す電話勧奨を行う。
- ・アクアドームの介護予防事業である「ここカラ・カレッジ」（陸上運動・水中運動・調理実習）の陸上運動プログラムをコミュニティセンターで実施できるようにする。
- ・スポーツサポートセンター（仮称）との連携を強化する。

③ 宗像市体育協会との連携

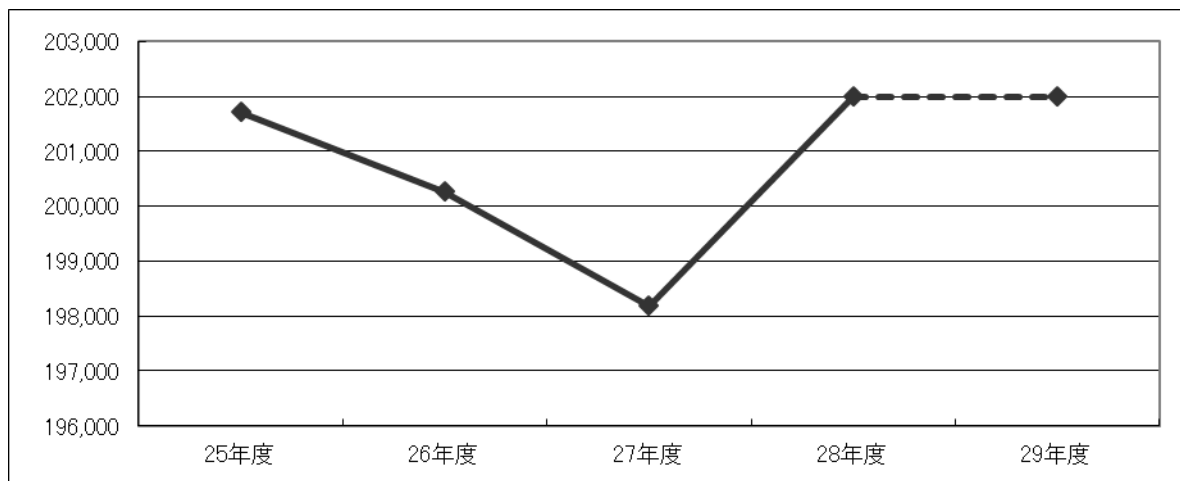
- ・平成 29 年度で宗像市の介護予防教室が廃止になる。体育協会主催の介護予防教室を共同開催し、平成 30 年度以降の受け皿になるように連携を強化する。

【 数値目標 】 ●入場者数 【202,000 人】

アクアドーム入場者数の推移

※28年度は見込値、29年度は目標値

	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
入場者数	201,712	200,266	198,181	202,000	202,000
対前年比	99.0%	99.3%	99.0%	101.9%	100.0%



● ゆ～ゆ～プール

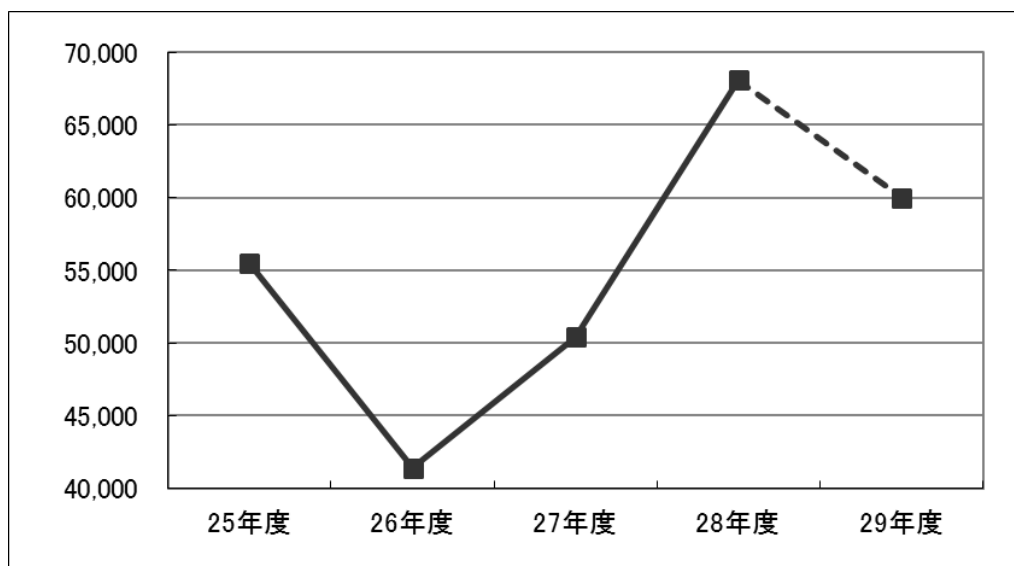
プールサイド等の利用環境が改善され、より快適なレジャープールとなった。これに併せ、幼児・小学生低学年が楽しく安全に遊べるサービスを実施していく。

【 数値目標 】 ●入場者数 【60,000 人】

ゆ～ゆ～プール利用者数の推移

※28年度は実績値、29年度は目標値

	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
入場者数	55,477	41,430	50,405	68,089	60,000
対前年比	101.3%	74.7%	121.7%	135.1%	88.1%
対前年人数	705	△ 14,047	8,975	17,684	△ 8,089



● **パットゴルフ場**

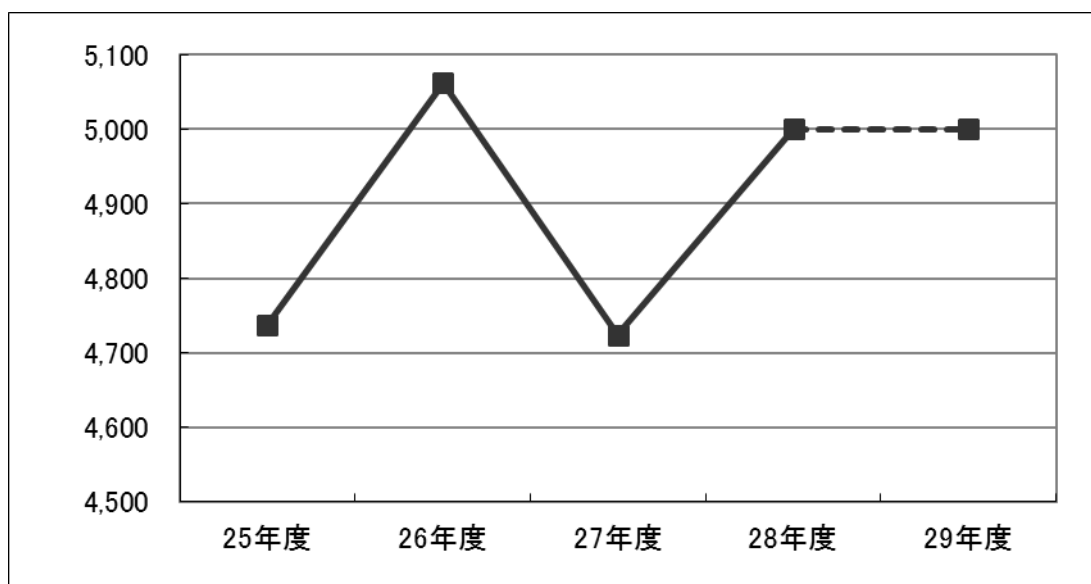
入場者の減少傾向が続いている。シニアやファミリーなど利用者を明確にしたサービスの継続やコミュニティ対抗の大会再開等により、トレンドの変化を目指していく。

【 数値目標 】 ●**入場者数【 5,000 人 】**

パットゴルフ場利用者数の推移

※28年度は見込値、29年度は目標値

	25 年度	26 年度	27 年度	28 年度	29 年度
入場者数	4,738	5,062	4,724	5,000	5,000
対前年比	86.3%	106.8%	93.3%	98.8%	105.8%
対前年人数	△ 749	324	△ 338	276	0

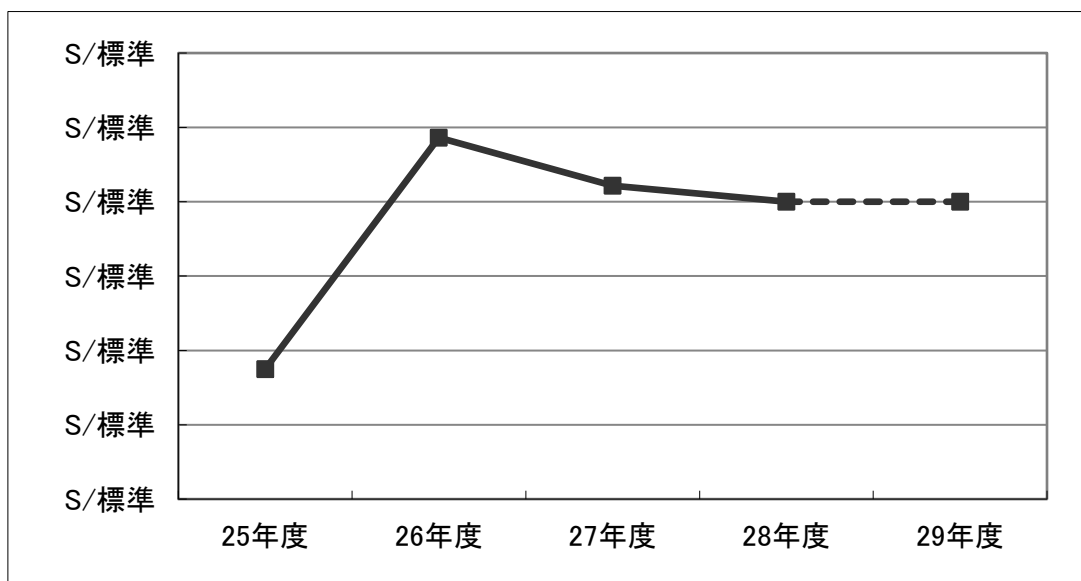


● テニスコート

新サービスの導入検討や積極的な広報実施により、入場者数の増をめざす。

※28 年度は見込値、29 年度は目標値

	25 年度	26 年度	27 年度	28 年度	29 年度
入場者数	20,875	22,431	22,107	22,000	22,000
対前年比	89.1%	107.5%	98.6%	99.5%	100.0%
対前年人数	△ 2,542	1,556	△ 324	△ 431	△ 107



⑦ 公 3 「健康増進事業（健康増進企画・体験事業）」

宗像ユリックスアクアドームは、利用者数が年間 20 万人を超え、市民の多くの方々が健康増進にむけ、積極的に運動を行っている。この現状に満足することなく、高齢化の急速な進展などの社会環境を見据えた取り組みの必要性・重要性を感じる。

これを受け、施設内での運動にとどまらず、「人々が喜ぶこと」、「人々が興味をもつこと」を念頭に、以下の多様な体験事業を実施し、より多くの市民の方々が運動などを通じた生活の質の維持・向上を行う施設運営を目指していく。

● 「食」に関する事業の取り組み

アクアドームは、管理栄養士を配置しており、「食」に関する知識を高め健康づくりに活かすことを目的に以下の事業を実施する

- ・ コミュニティセンターでの調理実習
- ・ 夏休み冬休み親子クッキング(対象：小学生と保護者)
- ・ 管理栄養士による食品づくり教室

● 愛好家を対象とした事業

ドーム内での運動活動支援に限定せずに、運動愛好家を対象とした事業を積極的に実施することで、お客様の期待にこたえていく。

- ・ ランニング練習会(年 12 回)
- ・ 水中運動教室、初級水泳教室(スイミングスクール休止期間)
- ・ アクアビクスイベント(休館日利用)
- ・ 一般利用者向けスイムビデオ撮影
- ・ 登山イベント

● 新規事業

- ・ レストラン「女神のテーブル」との共同企画
- ・ 音楽と簡単な運動を組み合わせた新規事業開発

(3) 法人運営

① 組織・運営体制

職員の体制については、現在の中核職員中心の体制を維持する。職員研修の充実を図り、財団職員全員の能力を向上させるとともに、組織力の強化を図る。

【 ユリックス職員数 】 (29.4.1 現在)

職 種	総務部	事業部	計	備 考
中 核	2	3	5	市派遣職員含む
専 任	2	3	5	
嘱 託	3	4	7	
臨時A	4	7	11	
臨時B	0	7	7	
計	11	24	35	

② 財政運営

平成 28 年度は前年度実施したイベントホール改修工事の影響から回復した。また、夏の好天などの影響により、ゆ〜ゆ〜プール入場者数が大きく伸び、利用料金、入場料金の増加がみられた。今年度は 4 月の両ホール改修に伴い、利用料金の減少が予想されるが、施設の老朽化に伴う修繕費の増加も予想され、財政運営には慎重に当たる。

平成 29 年度は、寄付金獲得や施設利用率、チケット販売率の向上に努める。また、平成 30 年度からの第四期指定管理に向け主要委託業務の検討に着手する。

【 指定管理費の推移 】

予算ベース	第一期指定管理費	第二期指定管理費	第三期指定管理費
管理運営コスト	357,308,000	346,083,000	368,828,000
対前期増減額	—	△11,225,000	22,745,000